

PTA あきた

～未来を拓く子どもたちのために、今できること～



2025.3.1

No.151

【発行】秋田県PTA連合会
 【事務局】秋田市山王中島町1番1号 秋田県生涯学習センター内
 TEL (018) 864-8975 FAX (018) 824-7935
 E-mail: info@pta-akita.com
 http://www.pta-akita.com

大仙市立 太田北小学校

第18回大仙市立太田北小学校全校音楽劇



令和6年度 ふれあい 事業報告



湯上市立 天王南中学校

餅つきを楽しむ会



鹿角を元気にするプロジェクト

鹿角市立 花輪中学校



第50回秋田県PTA研究大会 男鹿大会

大会
主題

食育で未来を拓く

～家庭・地域・学校の協働で子どもたちの
健やかな成長とかな心を育む～

大会
案内

期日／令和6年10月5日(土)

会場／男鹿市民文化会館 小ホール

令和6年10月5日(土)「第50回秋田県PTA研究大会男鹿大会」が「食育で未来を拓く」を大会主題とし、男鹿市民文化会館を会場に行われました。

今年度は50周年の節目の大会であり、男鹿市立男鹿南中学校なまはげ太鼓クラブによる迫力ある記念アトラクションが行われ、開会行事では三行詩コンクール受賞者の方への表彰式も同時に行われました。受賞されました皆様、誠におめでとうございます。

また、記念講演では、講師にテレビやラジオでご活躍されております食育インストラクターの桜庭みさお様をお招きして「食が育む豊かな日常」と題し、家族みんなが心身ともに健全に毎日を過ごすために大切な「食」についてご講演をいただきました。食べたいものがいなくても食べられる便利な時代ですが、家庭教育や学校教育においても大切な「食」について、改めて食生活を見直すきっかけになるお話しでした。



開会行事



記念講演



アトラクション



三行詩コンクール表彰

次期開催地
湯沢雄勝PTA連合会

男鹿市長 菅原広二様 挨拶

秋田県PTA連合会
会長 清水隆成 挨拶秋田県教育庁生涯学習課
佐々木泰生様 祝辞

映画「夢みる小学校」上映会

令和7年1月19日(日) あきた芸術劇場ミルハス中ホールにて、映画「夢みる小学校」上映会を開催いたしました。

ご覧いただいた方からは「子どもがゆめをもてる環境作り大切ですね!」「このような学校に行ってみたい」「子どもの無限の可能性を信じてあげることも必要だと思わせてくれる映画でした」「多くの子どもたち親たち先生にに知ってもらいたい、観てもらいたい」など…沢山のご感想をいただきました。

また機会がございましたら上映会など企画したいと思います。
多くの方からのお申込み、ご来場ありがとうございました。



夢みる小学校 完結編 上映会

第72回日本PTA全国研究大会 川崎大会

大会
主題

「ウェルビーイングの実現を、川崎の地から
～活かそう「縁」の力～」



いざ、川崎へ！

大館市PTA連絡協議会 会長 田村 健

去る令和6年8月に「第72回日本PTA全国研究大会川崎大会」が川崎とどろきアリーナを会場とし「ウェルビーイングの実現を、川崎の地から～活かそう「縁」の力～」と題して開催されました。

参加証を兼ねた黄色のリストバンドを装着し、アリーナ入口付近で秋田県メンバーと合流し会場入り。ここで川崎大会の仕掛けに驚かされる事になります。着席後間もなく「違う色のリストバンドの方と隣り合うように座って下さい。」と場内アナウンス。遠方の方々と隣り合うように仕組まれておりました。その方々とは自己紹介から始まり、各講演が終わるたびに意見交換をする事になります。ちなみに私は川崎市の方、広島市の方と隣り合わせになり、都会・地方の違いも加味され様々な考え方や取り組みを知る事が出来ました。なるほど、ここで味わえた縁の力。

さて、ウェルビーイングという言葉ですが、恥ずかしながら私はイマイチ意味を理解しておりませんでした。日本語に訳しにくい言葉のようですが「続く幸福感」とか「究極に善い状態」との意味合いです。要するに、みんながずっと幸福を感じられる世界の実現。がテーマとなります。書いてみて宗教っぽい？と一瞬思いましたが違いますのでご安心下さい。講演の内容を箇条書きにしますと、多様性（個人）を認める。寛容である事。出来ない子がいても、「出来ない」ではなく「出来なくて困っている」という考え方が大事。萎縮させない事で発想力が伸びる。その場所（仲間）に慣れることで発言しやすくなり自分の居場所となる。日本人の美徳である自己犠牲や協調性の影響で忘れていた「まずは親が楽しむ」事で子供が救われる事も多い。結果、自己肯定感を高めよう。等々たくさん新しい気づきを頂く事が出来ました。

今回勉強させて頂いたウェルビーイングの考え方は、個人を優先するあまり集団生活に影響を及ぼす危険があり、学校教育での実現には課題も多いと思います。しかし今後の教育の方向性を感じる事が出来ました。自分で出来る事を実践し、ウェルビーイングの実現に取り組んでいきたいと思えた2日間でした。

第56回日本PTA 東北ブロック研究大会 東青大会

大会
主題

すべては子どもたちの笑顔のために



第56回日本PTA東北ブロック研究大会東青大会に参加して

横手市立平鹿中学校PTA 会長 泉谷 悟

令和6年9月7日・8日の2日間に渡り青森市で開催されました東北ブロック研究大会東青大会に参加してまいりました。「すべては子どもたちの笑顔のために」を大会テーマに、初日は特別分科会を含む6つの分科会が開催され、私は県PTA連合会高橋副会長（十文字中PTA会長）がパネリストとして登壇された第1分科会に参加しました。「健全育成・家庭教育」の分野を取り上げた第一分科会では、「PTAで何が出来る？」「子育ての悩み」「いじめの状況」「不登校問題」の4つの課題について討議が行われました。一つ目の「PTAで何が出来る？」では、仙台市にある「おきの学園」と言うPTAが潤滑油となり地域ぐるみで子どもたちの居場所をつくり見守る取り組みについて。二つ目の「子育ての悩み」では、育児について誰でも気軽に利用できる「あおもり子育てネット」の相談サポート事例について。三つ目の「いじめの状況」では、実際のいじめ発生件数と学校での取り組み強化によっていじめ検知数が増加している状況の報告について。最後コロナ禍後増加が顕著な「不登校問題」では、実際に不登校だった生徒が後に自身を振り返ったアンケート結果や、登校できないことを周囲に理解してもらえない辛さ、また本人を取り巻く周囲の方々にとって登校できない理由が分からない辛さについて議論されました。どの課題についても十分な討議時間が確保され、非常に有意義な分科会だったと思います。

2日目は全体会として開会行事の後、記念講演として日本PTAの歩みと役割について討論されました。近年では少人数学級の実現や教室へのエアコン設置に関する国への要望等、単P組織では解決できない問題について政策実現の役割を果たしているとの説明がありました。大会全般を通じ、時代に対応した変革の必要性和持続可能なPTAの在り方を広い視点で討議できたのではないかと感じました。参加すればPTA組織運営において参考になるアイデアを持ち帰ることが出来ますので、是非こうした機会をご活用いただけたらと思います。

教育 懇談会

令和7年1月30日(木)、秋田県教育委員会 安田浩幸教育長をはじめ、古屋桃香生涯学習課長のほか各課関係職員の方々からご出席いただき「令和6年度教育懇談会」を開催いたしました。懇談会では熱い議論が交わされ、今後の子どもたちへの有意義な情報交換の場になったと感じました。安田県教育長からは、人口減少に基づく今後の問題点や、対策、PTAへの協力など、これからの秋田の教育の在り方をお聞きしました。また、保護者が今直面している問題の質問事項には、各課より丁寧に説明をいただき、ありがとうございました。その概要を報告します。

不登校・いじめについて

学校へ行けないことを多様な選択肢の一つとしてとらえ理解することが必要と考える時代がきているとも思う。その子どもたちへのICTの活用も含めた学びの場を確保するための現状の対策として、どのような方法がとられているのか、また、そのような計画があるのか教えてほしい。

いじめについて、発生推移は全国的に年々上昇している。様々な対策を取られていると思うが、現在の対策と成果、今後新しい取り組みがあれば教えてほしい。また、実際に起こった際、現場の先生の負担は相当大きなものと思われ、学校における被害児童生徒のケア等、学校のいじめ対応をサポートする取組等について、現状や今後の計画があれば教えてほしい。

〈回答〉

始めに不登校児童生徒への学びの支援についてお答えします。

県教育委員会では、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等、心理や福祉の専門家と連携して不登校児童生徒の状況に応じた学びを促すなど、学校復帰に止まらず、社会的自立に向けた支援を行っています。

また、自分のクラスに入りづらい児童生徒に校内教育支援センターでの学びを支援するため、県内の小・中学校に児童生徒の学びを支える支援スタッフを16名配置しております。

次年度は、スクールソーシャルワーカー及び児童生徒の学びを支える支援スタッフを増員し、不登校児童生徒の思いや願いに寄り添いながら支援していくとともに、学校外の教育支援センターや民間団体等とも連携した不登校児童生徒支援を進めてまいります。

続いて、いじめに関する取組についてお答えします。

令和5年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」において、全国のいじめの認知件数は過去最多となりました。この増加については、いじめの積極的な認知に対する理解が進んだことが要因の一つとなっているものと捉えております。各学校においては、認知したいじめについて事態が悪化しないよう、早期解決に向けた組織的な取組を進めております。

県教育委員会では、いじめの防止やいじめ対応に関係する機関及び団体が一堂に会する「秋田県いじめ問題対策連絡協議会」を毎年開催し、いじめ問題に関する総合的な取組についての情報共有や協議を行っております。協議した内容で、学校での取組に関わる内容については、毎年度作成している「学校教育の指針」に示すとともに、県や市町村教育委員会の指導主事が参加する協議会で共通理解を図るなど、いじめ対応への理解啓発を進めております。

引き続き、日常の観察や教育相談体制の充実等により、いじめを積極的に認知し、個々の児童生徒の状況に応じた適切な指導・支援がなされるよう市町村教育委員会を通じて、各学校に働き掛けていきたいと考えています。

(回答者：県教育庁義務教育課 指導チーム 大嶋 隆夫)

部活動地域移行の進捗状況について

現在、地域移行に向けて進めているが、地域と学校の関わりの定着は、各市町村により温度差があると思われる。移行状況を含め、教員、児童生徒、保護者からの意見や問題点などの集約は行われているか、現在の実態と課題(指導者及び運営員の不足・児童生徒の移動手段・保護者の負担部分・地域格差など)があれば

教えてほしい。

運動部の地域移行はいつまでに完了する予定か。また、文化部活動の地域移行について、どのような取組を行っているのか現時点での計画と、それに関しての課題があれば教えてほしい。

〈回答〉

昨年度策定した「秋田県における部活動の地域移行推進計画(Ver.1)」では、令和5年度は各市町村における協議会の設置、令和6年度は各市町村における推進計画の策定、令和7年度は各市町村における一つ以上の地域クラブ活動の段階的開始を各年毎の目標として定め、支援してまいりました。

また、移行期間については、国が改革推進期間として定めた令和5年度から令和7年度中に、地域移行を行うことを原則としていますが、各市町村においては環境の整備状況が異なるため、移行の達成時期を一律に示すことはなく、学校や地域の実情に応じて可能な限り早期に取組を進めていくことが望ましいとしています。

県内各市町村の取組状況としては、県教育庁保健体育課の調査より、現在、協議会を設置している市町村が今年度中の設置予定を含めると9割を超え、推進計画については8割を超える市町村が策定または策定予定としています。

さらに、コーディネーターについては、予定を含めると半数近い市町村で配置しており、令和8年度末までに休日の地域移行を進めていくことを目標とする市町村は半数以上でありました。

このように、概ねほとんどの市町村で、地域移行を意識した取組が進められている反面、地域間の取組差や進捗差が生じていることが大きな課題としてあげられます。

今年度、県では実証事業モデル地域を昨年度より拡充し、羽後町、大館市、北秋田市、秋田市、大仙市において実証を進めています。モデル地域からは、指導者の質と量の確保と生徒の移動手段の確保等が課題としてあげられています。

県は、これらの課題解決に向け、昨年度に引き続き秋田県中学校部活動地域移行推進事業連絡会・連絡協議会を開催し、取組の分析・検証、今後の改善策や方向性などについて協議・検討しています。

また、市町村に対する具体的な支援として、県スポーツ指導者登録システムの設置・運用による広域的な指導者の派遣や県総括コーディネーターの訪問による個別相談において指導助言を行うなど、地域の実情に応じた体制整備が円滑に進められるよう支援を行っています。

今後、少子高齢化が急速に進展する本県では、生徒数の減少により学校の部活動が成り立たない状況が懸念されるため、子どもたちが将来にわたり運動やスポーツに親しむことができる持続可能な環境づくりが求められています。

そのためには、5年先、10年先を見据えながら、学校を含めた地域全体で子どもを育てる体制づくりが必要であり、保護者の皆さんをはじめとする地域の方々が当事者意識を持っていただくことが必要です。保護者の皆さんの御理解と御協力をお願いします。

県教育委員会としましては、保護者の皆さんをはじめとする地域の方々の協力を得ながら、伴走者として、秋田の子どもたちのやってみたい、やってみようを叶えられる環境づくりを支援してまいります。

(回答者：県教育庁保健体育課 学校体育・部活動チーム 斎藤 淳一)

文化庁活動の地域移行に向けた令和6年度の取組については、「文化庁活動地域移行等推進事業」において、「文化庁活動地域移行実証事業」及び「文化庁活動指導員配置支援事業」を実施しております。

「文化庁活動地域移行実証事業」については、実証事業の拠点地域である、大館市及び大仙市の成果の普及を他の市町村にも図ってきました。また、知事部局及び教育庁内の関係課、秋田県芸術文化協会、秋田県吹奏楽連盟、秋田県合唱連盟の関係者による「文化庁活動地域移行連絡協議会」を2回開催し、国の動向や各協会・連盟の状況等について情報交換及び協議を行いました。その連絡協議会の中で、吹奏楽部及び合唱部の指導者や、中学生の受入れが可能な文化芸術活動実施団体一覧についてリストの作成を進めており、令和7年度には、県の公式ホームページ（美の国あきたネット）に掲載する予定です。

「文化庁活動指導員配置支援事業」については、今年度、6市に14名の吹奏楽部等の指導員を配置し、部活動指導や指導者確保に関して支援を行いました。令和7年度は配置人数を拡充して支援を進める予定です。

課題としましては、各地域での指導者確保に関する支援や指導者への研修等の実施に向けて、関係機関との一層の連携による取組が必要と考えております。

（回答者：県教育庁義務教育課 指導チーム 大嶋 隆夫）

コミュニティ・スクール（以下CS）制度について

現在の実態と課題があれば教えてほしい。また、今後の中長期的な目標や計画、また新たな取り組みなどがあれば教えてほしい。その中で、年数回の学校運営協議会を行うだけの形ばかりのCSが一定数あると感じている。教員の多忙化、部活動の地域移行などの問題は共有されているかなど、重要度は増してきていると考える。CSの仕組みをうまく活用できている地域や学校があれば、その理解や参加意識を深める方法や、先生方の考え方、学校運営協議会の持ち方などを教えてほしい。

CSの導入が児童生徒の学びや成長にどのような影響があるのか調査結果などあれば教えてほしい。また一方で地域を巻き込み一歩先に進んだ活動をしている地域もあるようだが、現在評価されている活動、推進する計画があれば教えてほしい。

〈回答〉

まず、国や県の計画等についてお伝えします。国の「教育振興基本計画」では、「地域や家庭と共に学び、支え合う社会の実現に向けた教育の推進」のために、「CSと地域学校協働活動の一体的推進」が施策の柱として位置付けられています。また、県では、「第3期あきたの教育振興に関する基本計画」の目標の一つである「地域とともに取り組む多様な教育の展開」を実現するためにCSの導入は重要な課題と認識し、市町村教育委員会や県立学校への働き掛けを進めています。今後、県立学校へのCS導入の促進に向けた取組を進めるほか、すでに導入されたCSの質的向上に向けた支援にも取り組んでいくことが必要と考えています。

次に、好事例の紹介です。CSの仕組みをうまく活用し、他の学校や地域の模範となるような取組に対して、文部科学省が表彰を行っています。今年度、本県から受賞することになった二つの事例を紹介します。

湯沢西小学校の学校運営協議会では、熟議の前に参加者全員が基調講演等を聴講することで、テーマへの関心を高め、活発な意見交換が行われています。また、「動くCS」をキーワードに、地域学校協働活動推進員のコーディネートの下で様々な活動が展開されています。同校の地域学校協働活動推進員は、地域の様々な場で学校運営協議会の話題を取り上げ、関心をもった人々を地域学校協働活動に結び付けています。地域住民はその都度募集されており、できる人ができる範囲で、地域学校協働活動に参画しています。このように、積極的に活動を行うことでCSがよく見えるようになり、地域と学校が一体となって子どもたちを育てていくことが住民に認知されてきています。

小坂小・中学校は、児童生徒を長期的に育成できるという特長を生かし、学校運営協議会と地域学校協働活動が一体となった取組を推進しています。この取組の中心となる地域学校協働活動推進員の活動を支えるために、学校内に活動拠点として「パレット広場」が設けられています。子どもたちが身近に感じられる場所に活動拠点があることで、同校の地域学校協働活動は児童生徒の実態に即したものとなっています。また、地域全体に「学校を支えていこう」という雰囲気があり、様々な団体が地域学校協働活動に参加していることも特長といえます。さらに、地域学校協働活動に参加する住民が多いため、学校運営協議会でも前向きな議論や提言がなされていて、長年継続されている活動に加え、新しい活動も常に検討されています。

最後に、児童生徒への影響についてです。全国CS連絡協議会と文部科学省が令和4年に発行した資料によると、「子どもの安全・安心な環境の確保」「子どもたちのコミュニケーション能力の向上」「地域への理解・関心の深まり」といった効果が出ております。文部科学省のウェブサイト内にある「学校と地域でつくる学びの未来」では、CSに係る様々な資料や動画がありますので、興味のある方はぜひ参考になさってください。

（回答者：県教育庁生涯学習課 社会教育・読書推進チーム 山内 健）

子どもの将来の進路について

高校卒業で就職する生徒は現在どのくらいいるのか。

今の時代は自分の将来を決める年齢がどんどん低年齢化しているため、未来の自分を考える時間が少ない。秋田の子どもたちが、秋田で学ぶことのできる環境や選択肢の整備が必要と思うが、今後そのような展望はあるのか。

〈回答〉

令和5年度高等学校卒業業者数は6,556名（公立全日制・定時制及び私立）で、そのうち、令和5年度末現在の就職決定者数は、民間及び公務員を合わせて1,771名であり、卒業業者全体に占める割合は27.0%でした。過去3年間において27%台で推移しております。県教育委員会では、高校生が将来について考えることができるよう、労働局、ハローワーク、就職活動支援センターと連携した就職準備セミナーを実施するなど、高校生の職業観や勤労観を醸成する取組を行っております。

また、県教育委員会では、昨年6月に第八次秋田県高等学校総合整備計画（素案）を発表し、これから先10年間の本県高校教育の展望を示しました。素案では統合等再編整備により学校数が減ったとしても、統合前のそれぞれの学校がもっていた特色を、学科やコース・系列として、統合後の学校に引き継ぐことで、中学生の選択肢を確保することとしております。統合等によって新たに学科を設置する場合は、地域の中学生の志望動向、地域の産業、進路状況等、多様な視点からの分析を踏まえて設置したいと考えております。

今後も、生徒数の減少が予想されますが、教育の機会を保障するという視点、全県的なバランス等を踏まえながら、秋田の子どもたちが、秋田で学ぶことのできる環境や選択肢の整備に努めてまいります。

（回答者：県教育庁高校教育課 指導チーム 櫻田 瑞子）



令和6年度表彰一覧

優良PTA文部科学大臣表彰

- 【団体表彰受賞】 ● 秋田市立築山小学校保護者と教師の会
● 大仙市立仙北中学校PTA

公益社団法人日本PTA全国協議会会長表彰

- 【団体表彰受賞】 ● 能代市立二ツ井小学校PTA
● 湯沢市立湯沢北中学校PTA
- 【個人表彰受賞】 ● 黒澤 良子 秋田県PTA連合会 副会長
● 黒瀬 友基 秋田県PTA連合会 副会長

令和6年度東北ブロックPTA協議会会長表彰

- 【団体表彰受賞】 ● 秋田市立戸島小学校PTA
● 秋田市立港北小学校PTA
● 大仙市立協和中学校PTA
● 湯沢市立湯沢東小学校PTA
- 【個人表彰受賞】 ● 池田 瑞輝 小坂町立小坂小学校PTA 会長
● 岩谷 佳徳 大館・北秋田PTA連合会 前会長
● 大塚 正子 五城目町立五城目小学校PTA 前会長
● 渋谷 学 美郷町PTA連合会 前会長
● 泉谷 悟 横手市立平鹿中学校PTA 会長

「楽しい子育て全国キャンペーン」秋田県三行詩コンクール入賞者

- 【小学生の部】 ● 由利本荘市立由利小学校 2年 三浦 葵羽
● 由利本荘市立由利小学校 3年 熊谷 柊
● 由利本荘市立由利小学校 4年 加藤 優晴
● 能代市立二ツ井小学校 6年 小川 柚花
● 由利本荘市立由利小学校 6年 加藤 琴菜
● 由利本荘市立由利小学校 3年 木内 実優
- 【中学生の部】 ● 大仙市立西仙北中学校 3年 伊藤 大翔
● 大仙市立西仙北中学校 1年 森 真都
● 大仙市立西仙北中学校 2年 菅原 空羽
● 横手市立横手北中学校 2年 田中 冬真
● 横手市立横手北中学校 2年 伊藤 実優
- 【一般の部】 ● 三種町立山本中学校PTA 近藤百里子
● 由利本荘市立新山小学校PTA 工藤 華麗
● 由利本荘市立新山小学校PTA 高橋 良和
● 秋田市立土崎南小学校PTA 若林 尚子
● 秋田市立旭川小学校PTA 近藤 彩
- 【団体特別賞】 ● 能代市立二ツ井小学校
● 由利本荘市立由利小学校
● 大仙市立西仙北中学校
● 横手市立横手北中学校

優良PTA文部科学大臣表彰 学校紹介

秋田市立築山小学校保護者と教師の会 (築山小学校PTA)

続けるために変わること

秋田市立築山小学校PTA会長 根田 達也

この度、私も築山小学校PTAは優良PTA文部科学大臣表彰を受賞することとなりました。これは、今までの活動を紡いでいただいた全ての皆様のご尽力によるものです。この場をお借りして、深く感謝申し上げます。

これまで本校PTAは、総務広報部、文化部、保健体育部、生活安全部、の各専門部が組織され、登校時見守り事業、ベルマーク収集事業、研修事業、保護者親睦推進事業、体育着リユース事業、読書ボランティア事業、学校行事サポート事業など、様々な活動が展開されてきました。これらの活動は、子どもたちのため学校のためにより良い環境を作りたいという先人たちの熱意により築かれ、長きに亘り受け継がれてきたものです。

一方、近年のPTAを取り巻く環境は、コロナ禍による中断期間、少子化による担い手不足など、社会的な潮流により大きく変化しています。この変化に対応していくために、事業のスリム化、組織改編、新規事業などの模索を続けてきました。今年度は新規事業として「防災関連事業」に取り組みました。これは、昨今多発する災害に対する不安から子どもたちを護るため、希薄になりつつある地域との繋がりを強化するため有望な事業だと感じています。

大切なことは、子どもたちのより良い環境を目指し続けること、そのための活動を繋いでいくこと、と考えています。これからも、子どもたち・保護者・学校・地域にとって、今何を求められているかを考え、会員一同取り組んでいきたいと思います。



防災研修会 ～親子で学ぶ防災教室～

大仙市立仙北中学校PTA

PTAのアップデート

大仙市立仙北中学校PTA会長 佐藤 光成

この度、仙北中学校PTAが令和6年度優良PTA文部科学大臣表彰を受賞しましたことは、地域の方々や先生方のご協力の元、先輩方が昭和33年の仙北中学校開校と同時に設立されてからこれまで取り組んでこられた歴史を大変誇らしく思うとともに、私たち現役会員にとっては励みになるもので、大変感激しております。

さて、私たち仙北中PTAは、コロナ禍の制限が緩和された令和5年度から、令和の時代にふさわしい活動ができるように、組織や役割分担などの見直しを行ってきました。

令和5年度には、コロナ前と同じような活動を再開する中で、課題の洗い出しと見直す方向性を1年間かけて議論し、令和6年度の総会において、組織や役割分担の変更を行う規約改正を行いました。

さらに、新たな体制でスタートした令和6年度は、運営面の見直しにも着手し、分かりやすい資料づくり、専門部や学年部ごとのLINEグループの作成、PTAビブスの作成、会報の原稿収集にアンケートフォームを活用する、などの業務改善に取り組みました。学校からも一定の評価を頂いております。

こうしてこの2年間取り組んだPTAのアップデートは、我々が仙北中学校の校訓「開智・創造」を実践したものと自負しており、今後も、保護者がPTA活動に積極的に参加できるように取り組むことで、先生方の負担軽減につなげ、また、親の背中を見て育つ子ども達にもポジティブな影響を与えられると信じております。



アルミ缶・古紙回収

あいさつ運動

PTA講演会

郡市 PTA だより

かづの

●今年度の研修・活動報告

夏の「単位PTA会長・副会長合同会議」では、鹿角市教育委員会部活動地域移行コーディネーターから、中学校の部活動地域移行について説明をしていただき、国や県の動向、鹿角市の目指す方向性と現状等について理解を深めました。続けて開かれた懇親会でも、和やかな雰囲気で見解が交換され、有意義な研修となりました。

秋の「かづののPTA活動を考える会」では、フリーアナウンサー相場詩織氏から「置かれた場所で咲き誇る～地方在住者が全国で活躍する生き方～」という演題で講演していただきました。参加者からは「ことばの力をみがくことを自分自身も頑張ろうと思った。」「感銘を受けた。特に読書のお話は子どもが小さいときに聞くことができたよかった。」「子どもへの声の掛け方も考えさせられた。」等、講演を絶賛する

感想が多く聞かれました。

今後も会員相互の交流と学びの機会を大切にしたい活動を展開していきたいと思っています。



大館・北秋田

●大館・北秋田PTA連合会研修会

9月23日(月・振替休日)、大館市立中央公民館を会場に、「大館・北秋田PTA連合会研修会」を開催しました。北教育事務所長様をはじめとするご来賓の皆様、各校会員合わせて、約100名の方に参加をいただきました。

はじめに行われた全体会では、これまで地区Pや単Pの活動にご尽力された44名の会員に表彰状が贈られ、これ

までのご功労を参加者全員で讃えました。

講演会では、秋田大学客員教授 北秋田分校長 三浦栄一氏を講師に迎え、「景色が変わる時～歌を添えて～」と題し、物事の見方や考え方が変われば景色(心)が変わるということ、先生の体験と共に、その時にお作りになられた曲や心に残っている曲を披露していただきました。心に響くお話や言葉、そして素敵な歌に参加者は時間を忘れて引

き込まれました。



能代市山本郡

●心温まる講演会

11月23日に、ブラボー中谷さんを講師に、講演会を開催いたしました。「不思議と笑いと驚きと～考え次第で世界は変わる～」と題して、奥様と二人三脚のマジックを披露。集まった140名余のみなさんから、大きな拍手が湧き上がりました。中谷さんは、ご自分の闘病生活の中で、「できない」ではなく「～ならできる」と考え、苦境を乗り越えたこと

も紹介してくださり、私たちの心に響く、心温まる講演会となりました。

講演後は会場から質問も出ました。Q「家庭内で楽しいことを築くコツは？」A「親が一生懸命な姿を子どもに見せる」ブラボーさん夫妻は遠くで仕事があっても、朝子どもが起きるまでには家に帰ることを心がけていたそうです。Q「今後どのように？」A「ピークはこの後にある」60歳を過ぎてもこれからだという気持ちで過ごしていきたいとのこ

とでした。スタッフとして準備・運営に関わった各校会員のみなさんに感謝です。



潟上市・南秋田郡

●持続可能な潟南P連活動

昨年度末の第2回役員会で、今後の活動について協議する場を設けました。多数のご意見をいただいた結果、「役員の負担軽減をするとともに、より実効性のある活動にする」という方向性で活動を進めていくこととなり、今年度は以下のように活動を進めてきました。

本会は会長、事務局は2年毎の持ち

回りとなっており、毎年研修会を実施するのは負担が大きいということから、研修会は2年に1回行うこととし、第1回役員会は書面開催としました。

会議は報告や事務伝達だけでなく、各校のPTA活動に還元できるような情報交換できる場があればよいという意見から、1月29日に行った役員会では「各校のPTA役員の選出方法」について情報交換を行いました。学校事情や地域性等で各校が抱えている問題や

工夫について紹介し合い、意見を出し合い、活発な協議となりました。

今後もよりよいPTA活動を目指しつつ、持続可能な取組について協議していきたいと思っています。



男鹿市

●たくさんのご参会ありがとうございました。

10月5日、男鹿市民文化会館を会場として、「食育で未来を拓く～家庭・地域・学校の協働で子どもたちの健やかな成長と豊かな心を育む～」をテーマに第50回秋田県PTA研究大会男鹿大会を開催いたしました。当日は、お忙しい中各地区からご参集いただきありがとうございました。オープニングのアトラクションとして男鹿南中学校なまはげ太鼓クラブの中学生とは思えない

勇壮な演奏に始まり、食育インストラクターの桜庭みさお氏を講師に迎え、「食が育む豊かな日常」という演題で記念講演を行いました。「食は心と体を育む大切なもので、食育の第一歩は家庭から。」と、家庭生活での食事の重要性についてお話ししていただきました。参加者からも食事や健康を見直すいい機会となった、などの声をいただきました。

本地区は来年度学校統合により学校数が減少しますが、今後も家庭・地域・学校が協働で子どもたちを育ていき

たいと思います。



秋田市

●「子育て応援プロジェクト」継続中

秋田市PTA連合会では、秋に書面での臨時総会を開催し、令和7年4月1日付で会則を改正する旨の議案が可決されました。専門部の廃止、総会における代議員制の廃止、地区ブロックの再編などが改正の主な内容です。活動内容については変わることはありませんが、より一層会員の皆様に寄り添う形での活動を行っていく予定であり、「子育て応援プロジェクト」もまた

継続していきます。

今年度の「子育て応援プロジェクト」は臨床心理士・公認心理師の荒川玲奈氏をお迎えし、「子育てしながら心を耕す～自分と子どもをしなやかに受け止めるかんどころ～」というタイトルでご講演いただきました。思春期の脳の仕組み、「受け止める」ことの大切さ、親自身が幸せであることなど、子育てをするにあたってのコツを教えていただきました。

そして、秋田県PTA連合会主催・秋田

市PTA連合会主管の映画「夢みる小学校」上映会。教育の本来あるべき姿、というものを考えさせられた映画でした。

今後も子どもたちが健やかに成長できるように、様々な形で会員の皆様のサポートしてまいります。



由利本荘市

●由利本荘市PTA連合会教育懇談会から

11月15日に、由利本荘市教育委員会より、秋山教育長をはじめ、教育次長、教育総務課長、学校教育課長、生涯学習課長をご来賓として迎え、教育懇談会を開催しました。今回は、由利本荘市危機管理課の職員お二人をお招きし、「みんなが主役・地域防災」と題し、ご講話をいただきました。一人一人の防災意識の向上を図るとともに、防災活動をきっかけとした地域の絆づくり、地域

コミュニティの活性化を推進することが大切であることなど、防災を地域の視点から改めて考え直すきっかけとなりました。また、最新の情報を入手するためのヒントもいただきました。今年度は本市でも大雨によって川が氾濫するなど、大きな災害が発生したこともあり、参加者からは積極的に質問や意見が出されました。学校での防災教育・家庭での備え・地域でのつながりなど、一体感のある体制づくりへの意識を高めることにつながる、大変貴重な時間

となりました。



にかほ市

●にかほ市PTA連合会教育懇談会

副市長、教育長、教育次長、教育総務課長、学校教育課長を来賓に迎え、教育懇談会を開催しました。教育総務課長からは、市内7校すべての学校に関わる要望から、各校の修繕や設備等の細かな教育環境の要望に至るまで、丁寧な回答と説明をいただきました。

続いて行われた研修会では、秋田県生活環境部の長岐氏より、「ツキノワグマの生態と対策」と題して、①風雨の強い

ときはお互い気配に気付きにくいので注意する②クマの視力は悪いのでゆっくり後ずさりして物陰に隠れる③後頭部(頸部)を抱えてうつ伏せになることなどについてご講演いただきました。6月に金浦地区でクマによる人身被害が出たこともあり、講演後には、展示されたクマ除けグッズやクマの爪などを手に取って熱心に質問をする様子も見られ、大変有意義な研修会になりました。

今後も子どもの健やかな成長に寄与できるような活動をしていきたいと考

えています。



大仙市

●子どもたちの未来を共に育てるPTA活動

今年度も昨年度に続き、大仙市PTA連合会総会の後に懇親会を開催し、さまざまな垣根を越えてたくさんの会員と親睦を深め、これまでPTA活動に尽力されてきた先輩方のお話に大いに励まされ勇気をいただきました。現在、社会を取り巻く状況としては、人口減少、少子高齢化などにもとない課題は様々ありますが、地域の大人が一致団結し、子どもたちの健やかな成長のために力を尽くしていこうと気持ちを新たにすることができました。市内小中学校、園の代表者が一堂に会しての研修会も継続し、今年は2月7日に34回目の研修会を開催する予定です。子どもにしてみせ

か? 「ほ・ま・れ・か・が・や・き・を」で、伝わりやすいコミュニケーションと題して児童相談所職員から講話をいただき、子育てについて理解を深め、それぞれの立場で、またPTA組織として、どのように協力して子どもたちを健やかに育んでいくのかを考える機会になればと思っています。今後も、地域の大人が力を合わせて、子どもたちの明るい未来を共に育てる活動を続けていきたいと考えています。



仙北市

●唄で伝える家族の絆

今年度の研修(講演会)は、「うすいさと ライブ&トーク」を実施しました。うすい氏は自閉症と診断された子の父であり、子の思いや子への思いを唄で伝えるシンガーソングライターです。寺内タケシ&ブルージーンズのボーカルとして活躍しました。平成25年には角館交流センターでライブ&トークを開催しました。今回は「自閉症のきみの心をさがして〜11年のときを経て〜」の副題が付いています。家族への思いと子育ての日々から作った歌に放送大学を卒業したお子さんのフルート演奏を交えながら、聴くものの胸が熱くなるお話をしていただきました。後ろ

のスクリーンには「どんな子にも必ずいいところがある!」と映し出される瞬間があり、家庭の絆と成長の記録の数々が映された貴重なスクリーンの一コマでした。

家庭の中で子育てに最も時間を使う人を支えること、家庭の明るさが地域社会の明るさの源になることを呼び掛けて、大きな拍手の中、ライブ&トークは終演しました。



美郷町

●親力アップ講演会

美郷町では、「親力アップ講演会」を毎年実施しています。今年度は、美郷地区少年保護育成委員会主催の講演会を後援する形で「親力アップ講演会」を実施いたしました。講師は、スクールカウンセラーで保護司でもある安永智美さんで、「救えたはずの命から託された願い」という演題で講演していただきました。元警察官として多くの非行やいじめと関わってこられた安永さんのお

話には説得力があり、たいへん興味深いものでした。子どもを守る地域の力、子どもの問題行動の背景、出逢いで未来が変わる・変えられること、など実話をもとに分かりやすく説明していただきました。

安永さんの素晴らしいお話と熱心に聞き入るたくさんの保護者の方々により、「親力アップ」を達成することができました。今後も、子どもたちの健やかな成長を願い、町や関係団体、PTAが一体となって「親力アップ」を目指してい

きます。



横手市

●「横手の子どもを守るために」&「これからのPTA活動」

研究集会を11月30日(土)午後、浅舞地区交流センターを会場に開催しました。今回は、横手警察署の方々をお招きし、「横手の子どもを守るために」と題した講話と、参加者が10グループに分かれ、「これからのPTA活動」を考える協議との2部構成で行いました。講話では、交通課の方から「ヘルメット着用義務化と交通安全の現状」についてお話をいただきました。若者が抵抗感無く着用できるようなヘルメットも開発されているとのことで、参加者が実物を手に取る機会もありました。生活安全課少年係の方からは、SNS利用と少年犯罪について

の情報提供がありました。こちら全国的な課題となっており、大変熱心に聞き入る様子が見られました。グループ協議では21ある小中学校各校のPTA活動の課題について情報交換を行いました。会員数の減少は避けられないところですが、その中でも工夫した活動が共有され、大変有意義なものとなりました。



湯沢雄勝

●再開した研究集会

令和6年7月28日(日)、コロナ禍で開催が中断していた湯沢雄勝PTA連合会の研究集会を再開しました。研究主題は「かかわる つながる みんなで育つPTA」です。例年より遅めの開催となった6月の定期総会を受け、約1か月後の異例の開催となりました。それでもこれが実現可能となったのは、今年度の湯沢雄勝PTA連合会で会長となった小金屋さんを始め、役員のみさんの行動力があったからです。研究集会当日は、講演会及びグループディスカッションを行ったのですが、参加者からは好評でした。感想の中には、「親が楽しいと、子どもに

もポジティブな声かけができる。」という言葉が心に響いたというものがありません。また、未来への希望と、それにつながるヒントをもらえたという感想もありました。70名ほどの参加者でしたが、互いにつながりを感じ、前向きで温かな気持ちになる集会となりました。





メモリアルページ

今年度をもってPTA活動の
区切り(閉校)となる学校があります。

- ①創立年月日
- ②児童・生徒数
- ③PTA会長名
校歌



潟上市立東湖小学校



- ①昭和26年4月1日
- ②57名 ③安田 有紀

作詞 天野千代之助
作曲 井川久一

- 一 湖の
岸に生まれた やさしい子
おとなりどうしの 君あなた
みんななかよく 助けあい
手に手をとって 育とうよ
- 二 まっすぐに
すくすく伸びる 東湖の子
父母のめぐみを 背にうけて
みんな元気で しんげんに
きょうも一日 くらそうよ
- 三 天王の
さかえるように がんばる子
学びきたえに ゆるみなく
みんな明るく ほがらかに
希望にもえて はげもうよ



男鹿市立北陽小学校



- ①平成13年4月1日
- ②23名 ③木村 宏海

作詞 東山重雄
作曲 佐藤 真

- 一 青い海原 輝いて
光あふれる 学び舎に
希望の歌も ほがらかに
みんななかよく 学ぼうよ
われらの 北陽
北陽小学校
- 二 神秘の目湯 きらめいて
みどりぞ風 かよう度
きたえる体 すこやかに
みんなぞろって 伸びようよ
われらの 北陽
北陽小学校
- 三 杉立つお山 陽に映えて
歴史ゆたかな ふるさとに
未来の夢も おおらかに
みんな手をとり 進もうよ
われらの 北陽
北陽小学校



男鹿市立弘戸小学校



- ①明治10年9月18日
- ②48名 ③小松 貴典

作詞 工藤武雄
作曲 海鋒義美

- 一 朝の光が 銀色に
八郎潟を 照らすとき
風は 田んぼを さわやかな
恵みの波と そよがせて
ゆくての望みを この窓に
また新しく もつてくる
弘戸小 弘戸小 たのしい学びや
- 二 タベの雲が あかあかと
さむかせ山に 映えるとき
風は 田んぼを ゆるやかな
平和の波と そよがせて
はたらき 学ぶ よろこびを
いつも豊かに もつてくる
弘戸小 弘戸小 たのしい学びや
- 三 風に高鳴る みやしろの
松の緑を いつまでも
栄えある 歴史と 仰ぎ見て
心 すなおに 勤勞の
汗をよろこび とともに
力をあわせ 励もうよ
弘戸小 弘戸小 みんなの学びや



秋田市立太平小学校



- ①明治7年7月7日
- ②25名 ③高橋 吉信

作詞 鎌田巳千雄
作曲 小野崎 晋三

- 一 朝さやけき 陽光をあびて
あぜの仔牛と ほほえみ交わし
若き血潮の 希望にいさむ
友と学ばん 集いもかたぐ
太平 太平 たのしい学び舎
- 二 森に社に 村のよび名に
栄えしあとの かおりも高く
若き心の かがみとなりて
源遠く 流れは清し
太平 太平 ゆかしわがさと
- 三 山のけだかさ そのうるわしさ
峯をおおいし あさ雲ははれて
若きわれらの 姿とそびゆ
強く雄々しく すくすく伸びん
太平 太平 はるけき山路



秋田市立下北手小学校



- ①明治8年5月24日
- ②22名 ③橋本 俊祐

作詞 大塚定彬
作曲 小松平五郎

- 一 柳の館の片ほとり
緑が岡の学びやに
教草摘み日に
月に伸び行く
若き子等をみよ
- 二 仰げば太平巖嶺として
高き望みを示しつつ
飛び白雲をふところに
大空衝きて聳え立つ
宝川辺の美し田に
- 三 鉄の力も隈も無く
実る瑞穂の豊けくも
琥珀を鳴らし波を打つ
我が村人をはぐくみて
ここに年経し学びやの
歴史とうとび共に輝き
とわに有らしめん
- 四 理想の村を築くもの
我等を措きて誰が有る
想えば使命いや重し
奮い励まんいざやいざ



仙北市立白岩小学校



- ①明治7年7月6日
- ②39名 ③雲雀 明徳

作詞 才田正庸
作曲

- 一 白岩岳のけだかさを
仰ぐ明けくれ健やかに
手をとる集う
我らの学び舎
歩む足どりたくましく
山なみ越えて進もうよ
- 二 名も玉川の水清く
映えてひとみも
涼やかに
笑顔の集う
我らの学び舎
高く校旗をなびかせて
望み明るく励もうよ

『児童・生徒・PTA総合補償制度』について

補償項目

※学校管理下・PTA活動外等の起因により事故対象にならない場合があります。

ケガの補償

細菌性・
ウイルス性
食中毒

熱中症

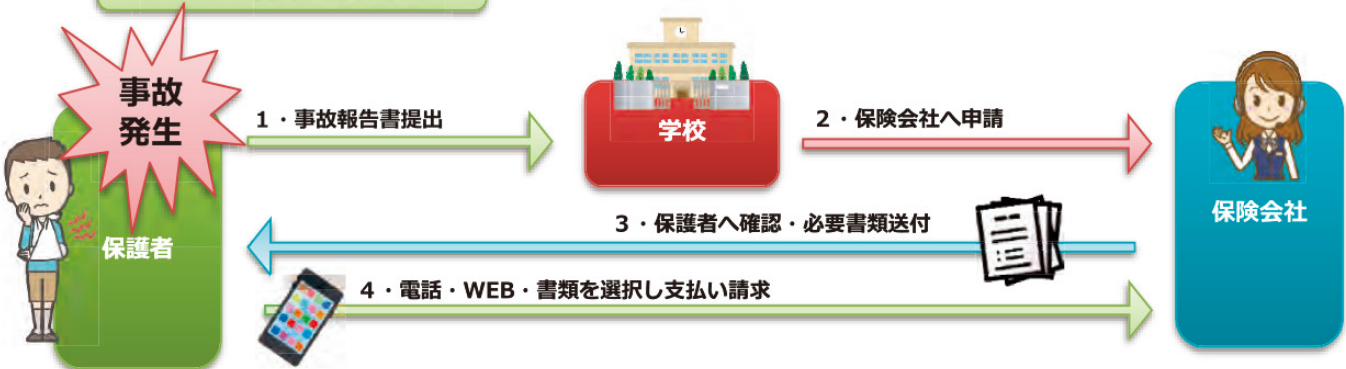
賠償事故の補償

バザー等の
提供飲食物による
損害賠償

法律相談
クレーム対応費用

PTA共催活動中の
賠償補償

保険金の手続き方法



2024年4月1日からの補償項目・補償内容について

ケ ガ の 補 償	補 償 項 目	保 険 金 額	
		①学校管理下外（児童・生徒）※注1	②PTA活動中（児童・生徒、PTA会員）
	死亡保険金	100万円	150万円
	後遺障害保険金（障害の程度により）	4万円～100万円	6万円～150万円
	入院保険金日額（180日限度）	1,200円	1,800円
	手術保険金	入院中 12,000円/入院中以外 6,000円	入院中 18,000円/入院中以外 9,000円
	通院保険金日額（90日限度）	800円	1,000円

※注1 入院保険金、手術保険金、通院保険金は、事故の日からその日を含めて7日目以降においてなお、入院または通院した場合に限り、入院または通院を開始した日から保険金をお支払いします。

賠償事故の補償	補 償 項 目		保 険 金 額（お支払い限度額）
	PTA活動の遂行に伴う賠償責任 （自己負担額 5,000円）	対人	1名：3,000万円／ 1事故：3億円
		対物	1事故：200万円
	保管物の損壊等による賠償責任 （自己負担額 5,000円）	対物	1事故：10万円 保険期間中：500万円
	提供飲食物危険補償 （自己負担額 5,000円）	対人・対物	1名・1事故/PTA活動の遂行に伴う損害賠償責任の対人・対物補償と同類注）保険期間中の限度額については、対人・対物それぞれの1事故あたりの限度額が適用されます。
	児童・生徒の賠償責任 （自己負担額 0円）	対人・対物 共通	1事故：1億円
	法律相談・クレーム対応費用 （自己負担額 0円）		1事故：100万円 保険期間中：1億円
	付帯サービス		弁護士相談・紹介サービス

令和7年度

PTA研究大会のお知らせ

■第73回日本PTA全国研究大会 石川大会

大会スローガン:

サステナブルな未来づくりのために
～創造と協働の継承を 石川から～

開催日: 令和7年8月22日(金)～23日(土)

会 場: 石川県立音楽堂ホール ほか

■第57回日本PTA東北ブロック研究大会 仙台大会

大会スローガン:

「仙台で織りなす未来」

～居場所を創るS.D.G.sプロジェクト～

開催日: 令和7年9月13日(土)～14日(日)

会 場: 東北大学百周年記念会館「萩ホール」ほか

■第51回秋田県PTA研究大会 湯沢雄勝大会

大会スローガン:

楽しむ力を育てる

～ひとり一人の幸せのカタチ～

開催日: 令和7年11月8日(土)

会 場: 湯沢ロイヤルホテル

令和7年度

「みんなで育てる 秋田ふれあい事業」 の募集について

令和7年度もPTA行事やPTA内の活動グループが主催する子どもを含めた事業に、予算内で上限5万円の助成を行います。応募要項は、秋田県PTA連合会ホームページのお知らせをご覧ください。



PTA安全互助事業

PTAの保険は、学校管理下外のケガや登下校中のケガ、PTA行事でのケガ、賠償事故の補償をしています。

令和7年度の補償内容・
加入要項を3月に各学校
へお送りいたします。新年
度のご加入をよろしくお
願いいたします。



秋田県PTA連合会補償制度取扱会社



AIG 損保

AIG損害保険株式会社 北海道・東北地域事業本部 秋田支店

〒010-0001 秋田市中通2-3-8 秋田アトリオンビル10F

TEL: 018-801-2010 FAX: 018-801-2022 午前9時～午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)